



夏の陣図

目 次

博物館のあゆみ

|         |    |
|---------|----|
| 平成 6 年度 | 2  |
| 平成 7 年度 | 7  |
| 博物館の名品  | 12 |

## 博物館のあゆみ

平成6年度

### 館内業務

#### 1. 資料の撮影

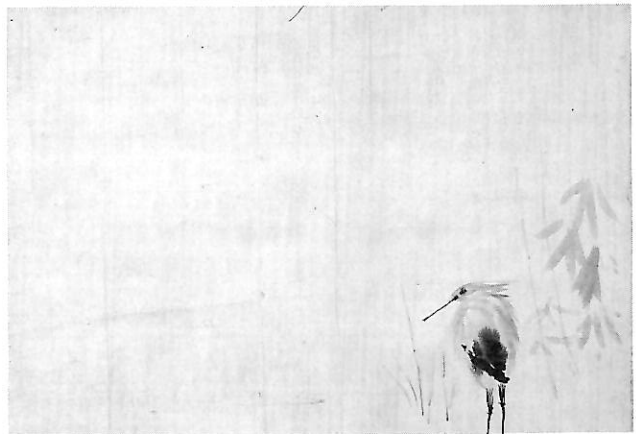
- 平成6年4月4日～5日、(株)大塚巧藝社写真部に依頼し、刀装及び修補の甲冑の撮影を行った。(以下、撮影は(株)大塚巧藝社)
- 平成6年7月15日、弓具(四代将軍家綱遺品)の撮影を行った。
- 平成6年11月29日、複製のため鷺図(伝徳川家康筆)の撮影を行った。
- 平成7年3月29日～31日、増改築記念図録掲載用資料の撮影を行った。

#### 2. 『久能山東照宮傳世の文化財 刀剣編』の刊行

- 平成6年5月中旬、東京国立文化財研究所情報資料部長広井雄一氏に依頼した当館所蔵刀剣の調査報告がまとまり、『久能山東照宮傳世の文化財 刀剣編』(B4版変形)として刊行した。

#### 3. 資料の移管

- 平成6年7月10日～31日、造替工事をひかえ、所蔵資料を整理・点検・梱包し、神庫等へ移管した。
- 平成6年11月20日、名古屋城へ出陳した資料(国宝1・重文18件を含む110件)を(財)水府明德会徳川博物館へ一時的に移管した。



鷺図 伝家康筆

## 館 外 業 務

## 1. 資料の出品

## ○「徳川慶喜展」

会期・平成6年4月15日～5月15日

会場・霊山歴史館

徳川慶喜像，慶喜書画，卯花威胴丸，軍帽，カメラ，徳川家茂書，腹巻，陣羽織，勝海舟短刀等10件を出品。

## ○特別展「武具の漆芸」

会期・平成6年7月9日～9月6日

会場・石川県輪島漆芸美術館

重文金陀美具足・白檀塗具足・歯朶具足・打刀拵・合口拵・長持等18件を出品。

## ○特別展「人と自然と虫たちと」

会期・平成6年7月22日～8月28日

会場・恵林寺信玄公宝物館

箆（徳川家光遺品）を出品。

## ○特別展「久能山東照宮の文化財」

会期・平成6年7月23日～8月31日

会場・岡崎市三河武士のやかた家康館

重文父母恩重經・香具箱・太刀雲次・太刀国行，紺絲威鎧，織田信長黒印状等29件を出品。

## ○「川村清雄展」

会期・平成6年8月13日～9月25日

会場・静岡県立美術館

徳川慶喜像と西洋風景（徳川慶喜画）を出品。

## ○特別展「続・福井の肖像画」

会期・平成6年10月1日～11月3日

会場・福井市立郷土歴史博物館

東照大権現像（天海賛写）を出品。

## ○特別展「桃山・江戸の美」

会期・平成6年10月1日～11月6日

会場・福山市立福山城博物館

重文芭蕉蒔絵硯箱と徳川家康自筆覚書を出品。

## ○特別展「久能山東照宮展―徳川将軍の武器と武具―」

会期・平成6年10月7日～11月7日

会場・名古屋城天守閣

国宝太刀真恒，重文太刀三池・金陀美具足・白檀塗具足・歯朶具足等110件を出品。

## ○特別展「美術にみる日本のスポーツ」

会期・平成6年10月8日～11月13日

会場・徳川美術館

弓具（徳川家綱遺品）を出品。

## ○企画展「天海僧正と東照権現」

会期・平成6年10月9日～11月23日

会場・栃木県立博物館

後水尾天皇宸翰神号・宣旨、太政官符、久能山全図を出品。

## ○特別展「土岐氏の時代」

会期・平成6年11月10日～27日

会場・岐阜市歴史博物館

重文太刀三池を出品。

## ○特別展「幕末農政学者長島尉信とその時代」

会期・平成7年2月11日～3月19日

会場・茨城県立歴史館

徳川慶喜像を出品。

## 2. 静岡県博物館協会総会

期日・平成6年5月18日

会場・静岡県立美術館

平成6年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸部長が出席。席上、松浦館長が会長に再任された。

## 3. 大名道具収蔵館集会

期日・平成6年6月3日～4日

会場・仙台市博物館

第3回集会が開催され、小林学芸部長が出席。

## 4. 静岡県文化財保存協会総会

期日・平成6年6月16日

会場・静岡県立中央図書館

平成6年度総会が開催され、松浦館長が出席。

## 庶務報告

## 1. 閉館

○造替のため、7月1日より閉館した（平成7年6月30日まで）。

## 2. 平成6年度入館者状況

| 区分<br>月 | 大人     | 小人    | 団体    | ロープウェイ<br>と共通 | クーポン  | 無料  | 計      |
|---------|--------|-------|-------|---------------|-------|-----|--------|
| 4月      | 5,545  | 485   | 1,224 | 2,167         | 854   | 76  | 10,351 |
| 5月      | 7,472  | 904   | 1,803 | 0             | 1,047 | 31  | 11,257 |
| 6月      | 4,438  | 284   | 1,389 | 0             | 579   | 40  | 6,730  |
| 計       | 17,455 | 1,673 | 4,416 | 2,167         | 2,480 | 147 | 28,338 |

## 3. そ の 他

- 4月2日 NHKが重文鉛筆を撮影。
- 4月3日, 5月8日, 6月26日, 8月25日, 9月18日, 10月23日, 11月27日, 12月11日, 1月16日, 及び2月26日 臨済寺史編纂研究会に小林学芸部長が出席。
- 4月23日 「フィラデルフィア美術館名品展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長が出席。
- 4月24日, 6月19日, 及び8月29日 静岡県史執筆者会議に小林学芸部長が出席。
- 4月25日, 及び9月5日 静岡県文化財保存協会の会報編集会議に小林学芸部長が出席。
- 5月21日, 及び1月21日 静岡県史近世部会(於静岡県産業経済会館)に小林学芸部長が出席。
- 6月24日 徳川美術館長徳川義宣氏の還暦集会(於ホテルオークラ)に松浦館長・小林学芸部長が出席。
- 7月7日～9日 石川県輪島漆芸美術館の特別展「武具の漆芸」を松浦館長・小林学芸部長が視察。
- 8月7日 輪島漆芸美術館で小林学芸部長が講演(演題「久能山東照宮の宝物の由来について」)。
- 8月10日 造替工事のため仮事務所へ移る。
- 8月13日 「川村清雄展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長・小林学芸部長が出席。
- 9月14日 焼津市和田公民館の歴史講座で小林学芸部長が講話。
- 9月16日 SBSテレビが重文洋時計を取材し, 松浦館長が出演。
- 10月2日 「ロダン・大理石彫刻展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長・小林学芸部長が出席。
- 10月7日 「久能山東照宮展」(於名古屋城天守閣)を松浦館長・小林学芸部長が視察。
- 11月15日 SBSテレビが今川氏真像のことにつき取材, 小林学芸部長が出演。
- 11月26日 静岡県博物館協会創立25周年記念特別講演会(於静岡県立美術館)に松浦館長が出席。
- 11月29日 資料撮影のため, 小林学芸部長が(株)大塚巧藝社写真部へ出向。
- 12月13日 NHKが徳川家康像を取材・撮影。
- 1月30日 展示ケースの視察で松浦館長・小林学芸部長が大阪へ出向。
- 2月22日 静岡県史の史料調査で小林学芸部長が宝台院と静岡市文化財資料館へ出向。
- 3月1日 図録作成の打合せに小林学芸部長が(株)大塚巧藝社へ出向。
- 3月7日 静岡県史の史料調査で小林学芸部長が清水市の桜井家へ出向。
- 3月10日 同様に小林学芸部長, 市内の宝台院別院へ出向。
- 3月11日 安土城考古博物館の松下浩氏・高木叙子氏が当館の織田信長・信雄文書を調査。
- その他, この期間に下記の人々が来館した。  
 鵜田孝一氏(大塚巧藝社, 4月4日～5日, 5月25日及30日, 10月3日, 1月12日, 3月29日～31日), 北見登氏(大塚巧藝社, 4月4日～5日, 3月29日～31日), 木村幸比古氏(霊山歴史館主任学芸員, 4月6日及5月20日), 水野茂氏(静岡古城研究会, 4月11日及24日), 澤井陽子氏(北海道開拓記念館, 4月23日), 立花義彰氏(静岡県立美術館主任学芸員, 5月5日), 堀江登志実氏(家康館学芸員, 5月19日, 7月12日～13日及

9月2日), 宮崎裕子氏 (NHK事業部, 5月25日及1月26日), 薮下浩氏 (岐阜市歴史博物館学芸員, 5月26日), アンナ・ジャクソン氏 (ヴィクトリア・アルバート美術館, 5月26日), 奥出賢治氏 (名古屋城天守閣学芸員, 6月1日, 8月20日, 9月23日~28日及3月2日), 足立尚計氏 (福井市立郷土歴史博物館学芸員, 6月7日, 9月21日及11月15日), 谷口徹氏・山岸岳氏 (彦根城博物館学芸員, 6月9日), 渡辺正夫氏 (中日新聞記者, 6月18日), 島口慶一氏 (輪島漆芸美術館, 7月1日~2日及9月12日), 井口信久氏 (川越市立博物館学芸員, 7月2日及12月31日), 下山肇氏 (静岡県立美術館学芸部長, 7月11日及9月27日), 水上哲朗氏 (信玄公宝物館学芸員, 7月15日及9月13日), 小松正治氏 (SBS制作部, 8月31日), 白水正氏・寛真理子氏 (岐阜市歴史博物館, 9月8日), 玉谷修一氏 (大塚巧藝社, 9月9日及26日, 10月3日, 1月12日), 野澤公次郎氏 (信玄公宝物館長, 9月13日), 鐘尾光世氏 (福山城博物館副館長, 9月20日及11月16日), 佐藤豊三氏 (徳川美術館学芸課長, 9月27日及12月2日), 千田孝明氏 (栃木県立博物館, 10月1日及12月6日), 奥田稔氏 (日通美梱, 12月6日), 黒澤脩氏 (静岡県教育委員会, 12月13日), 藤田氏 (名古屋城天守閣, 12月15日), 西源二郎氏・柴田勝重氏 (東海大学海洋科学博物館, 12月23日), 松平乗昌氏・柳田直美氏 (霞会館資料展示委員会, 1月25日), 三尾功氏・高橋克裕氏 (和歌山市立博物館, 1月26日), 松下哲也氏 (NHK, 1月26日), 佐藤正好氏 (茨城県立歴史館, 2月2日及3月24日), 斎藤孝正氏 (文化庁文化財調査官, 3月2日), 鈴木基之氏 (静岡県文化課, 3月2日), 大野瑞男氏 (東洋大学教授, 3月9日), 阿部正紘氏・西藤要子氏 (霞会館資料展示委員会, 3月30日)。

平成7年度

### 館内業務

1. 展示室・保存室及び資料の燻蒸

○平成7年6月10日～14日 1・2階の展示室・保存室と館蔵資料の燻蒸を中部資材株式会社に依頼し実施した。

2. 増改築記念特別展「久能山東照宮の名宝」の開催

会期＝平成7年7月1日～12月31日

増改築の開館を記念し、館蔵の名品約200点を展示。尚、6月25日に内覧会を関係者170名の参集を得て行った。

3. 平常展

会期＝平成8年1月1日～3月31日

館蔵の国宝太刀真恒、重文脇指貞宗・白檀塗具足等120余点を展示。

4. 資料の購入

○平成8年2月2日、水野忠邦和歌懷紙（彩箋墨書）1幅を購入した。浜松城主水野忠邦の侍従時代の筆になるもので、大名の文芸史料として重要。

### 館外業務

1. 資料の出品

○「後陽成天皇とその時代展」

会期・平成7年4月8日～5月14日

会場・出雲市立出雲文化伝承館

東照大権現像（天海賛写）と重文驚蒔絵香具箱（小箱3合入）を出品。

○特別展「書に見る伊達政宗—その人と時代—」

会期・平成7年4月21日～6月4日

会場・仙台市博物館

徳川家康像を出品。

○「久能山東照宮名宝展」

会期・平成7年4月22日～5月31日

会場・徳川博物館

国宝太刀真恒、重文薙染具足・金陀美具足・白檀塗具足・太刀雲次・火縄銃等59件を出品。

○特別陳列「将軍吉宗と尾張宗春」

会期・平成7年7月22日～9月17日

会場・徳川美術館

茶絲威鹿角兜（伝徳川吉宗遺品）を出品。

○特別展「将軍吉宗とその時代」

会期・平成7年8月5日～9月10日

会場・サントリー美術館

会期・平成7年9月22日～10月29日

会場・和歌山市立博物館

紺絲威鎧、紅絲威八方白星兜、重文太刀国行、着簞、鎧直垂（以上、徳川吉宗遺品）及

び吉宗書画を出品。

○特別展「狩野晴川院養信の全貌」

会期・平成7年9月23日～10月22日

会場・板橋区立美術館

東照大権現像（狩野養信筆）を出品。

○特別展「世界と日本一天正・慶長の使節一」

会期・平成7年10月6日～11月23日

会場・仙台市博物館

重文洋時計・目器・びいどろ壺・鉢・けひきはし・火縄銃を出品。

○特別展「武者・護りのデザイン」

会期・平成7年10月7日～11月6日

会場・名古屋城天守閣

角頭巾形兜・越中頭形兜・最上形兜・四方白筋兜・大黒頭巾形兜を出品。

○企画展「徳川四天王」

会期・平成7年10月28日～11月27日

会場・彦根城博物館

重文金陀美具足・齒家具足・太刀三池・脇指行光・脇指貞宗・鞍橋・鎧，東照大権現像（天海賛写），薙刀志津，鎗長吉，金扇馬標を出品。

○「徳川將軍書画展」

会期・平成8年1月6日～16日

会場・東京銀座ミキモトホール

「旭日紅梅図」（徳川家斉筆）と「竹金雀図」（徳川家慶筆）を出品。

○特別展「美の匠たちー日本刀をめぐるわざの世界ー」

会期・平成8年3月26日～5月6日

会場・埼玉県立博物館

重文打刀拵・小刀拵，黒白羅紗陣羽織を出品。

2. 大名道具収蔵館集会

期日・平成7年4月12日～13日

会場・金沢市厚生年金会館

第4回集会が開催され，小林学芸部長が出席。

3. 静岡県博物館協会総会

期日・平成7年5月27日

会場・静岡県立美術館

平成7年度総会が開催され，松浦館長・小林学芸部長が出席。

4. 刀剣鑑賞会

平成7年8月26日，刀和会（代表広井雄一氏）の依頼により館蔵刀剣（国宝太刀真恒・重文太刀三池・重文脇指貞宗等10口）の特別鑑賞会を開催。出席者49名。



## 庶務報告

## 1. 開館

平成7年7月1日より開館した。

## 2. 平成7年度入館者状況

| 区分<br>月 | 大人     | 小人    | 団体    | ロープウェイ<br>と共通 | クーポン  | 無料  | 計      |
|---------|--------|-------|-------|---------------|-------|-----|--------|
| 7月      | 3,874  | 277   | 597   | 1,439         | 498   | 180 | 6,865  |
| 8月      | 5,356  | 1,186 | 367   | 2,366         | 530   | 162 | 9,967  |
| 9月      | 3,736  | 132   | 958   | 1,038         | 445   | 109 | 6,418  |
| 10月     | 4,172  | 277   | 2,445 | 1,050         | 748   | 76  | 8,768  |
| 11月     | 4,606  | 195   | 1,651 | 1,309         | 658   | 71  | 8,490  |
| 12月     | 2,253  | 181   | 240   | 644           | 191   | 21  | 3,530  |
| 1月      | 6,610  | 747   | 752   | 1,085         | 353   | 113 | 9,660  |
| 2月      | 4,770  | 326   | 681   | 951           | 350   | 82  | 7,160  |
| 3月      | 5,054  | 742   | 592   | 1,361         | 542   | 63  | 8,354  |
| 計       | 40,431 | 4,063 | 8,283 | 11,243        | 4,315 | 877 | 69,212 |

## 3. その他

- 4月15日 仮事務所より新博物館に移る。
- 4月18日及び5月22日～29日 川端洋子、宮城島良枝博物館助勤に入る。
- 4月19日～21日 「久能山東照宮名宝展」飾付のため、小林学芸部長が徳川博物館へ出向。
- 4月21日 国立文化財研究所佐野千絵氏、博物館視察に来館。
- 4月29日、7月23日、8月20日、9月17日、10月29日、12月10日、1月15日、2月12日及び3月24日 臨済寺史編纂研究会に小林学芸部長が出席。
- 5月13日及び1月20日 静岡県史近世部会（於静岡県産業経済会館）に小林学芸部長が出席。
- 5月30日～6月4日 移管資料搬入のため、小林学芸部長が徳川博物館へ出向。
- 6月1日付で川端洋子（大谷大学卒）、宮城島良枝（杉野女子大学卒）を学芸員補に採用。
- 7月12日 芹澤銑介美術館の特別展開会式に松浦館長が出席。
- 8月4日 特別展「將軍吉宗とその時代」（於サントリー美術館）の内覧会に小林学芸部長が出席。
- 9月2日 「ホノルル美術館名品展」（於静岡県立美術館）の開会式に松浦館長・小林学芸部長が出席。
- 9月10日 静岡県博物館協会特別講演会（於静岡県立美術館）に松浦館長・小林学芸部長が出席。

- 9月27日 静岡県文化財保存協会の会報編集会議（於静岡県教育会館）に小林学芸部長が出席。
- 10月2日～3日 松浦館長・小林学芸部長が仙台市博物館へ特別展用件にて出向。
- 10月23日～25日 静岡県史の史料調査で小林学芸部長が盛岡市中央公民館へ出向。
- 10月30日～31日 和歌山市立博物館の特別展資料撤収に小林学芸部長が出向。
- 11月10日 徳川美術館の開館60周年記念式典に松浦館長・小林学芸部長が出席。
- 11月24日 NHKが番組取材で重文薬道具を撮影。
- 12月2日 静岡県文化財保存協会主催の文化財シンポジウム（於松崎町環境センター）に松浦館長が出席。
- 12月12日 SBSプロモーションが重文洋時計を撮影。
- 1月24日 朝日テレビが取材。
- 1月26日 防火訓練を実施。
- 2月11日 静岡県史の史料調査で小林学芸部長が市内の森家へ出向。
- 2月23日 保存室等の温湿調査を行った。
- 2月26日 東海テレビが当館を取材・撮影。
- 3月17日 中京テレビが当館を取材・撮影。
- その他、この期間に下記の人々が来館した。

小井川百合子氏（仙台市博物館学芸員，4月14日及6月7日），徳川恒孝氏（4月16日及6月25日），徳川幸子氏（4月16日，6月25日及9月10日），徳川義宣氏（徳川美術館長，4月17日），徳川三千子氏（4月17日），鵜田孝一氏（大塚巧藝社，4月17日，6月8日及25日，8月2日，1月12日，2月9日，3月22日），大橋享氏（アドリブ，4月25日），井口信久氏（川越市立博物館学芸員，5月4日及12月31日），今泉泰之氏（埼玉県立博物館，5月12日，11月16日及3月13日），杉山正司氏（埼玉県立博物館，5月12日），中村博司氏（大阪市教育委員会，5月22日），松平乗昌氏（霞会館資料展示委員会，5月23日），小池富雄氏（徳川美術館普及課長，6月7日及10月5日），玉谷修一氏（大塚巧藝社，6月8日，14日及21日，12月16日），野坂信雄氏（中部資材，6月11日），徳川斉正氏（徳川博物館長，6月25日），徳川真木氏（徳川博物館学芸員，6月25日），井伊正弘氏（彦根城博物館長，6月25日），谷口徹氏（彦根城博物館学芸員，6月25日及12月5日），佐藤豊三氏（徳川美術館学芸課長，6月25日），奥出賢治氏（名古屋城天守閣学芸員，6月25日，9月28日及11月9日），広井雄一氏（東京国立文化財研究所情報資料部長，6月25日及8月26日），赤松勲氏（登呂博物館長，6月25日及7月25日），藤木紀男氏（静岡県立美術館副館長，6月25日），立花義彰氏・玉蟲玲子氏（静岡県立美術館，6月25日），井出孝氏（静岡県文化財保存協会副会長，6月25日及2月11日），並木弘至氏（大塚巧藝社長，6月25日），北見登氏（大塚巧藝社，6月25日），中村羊一郎氏（静岡県史編さん室長，6月25日），池谷正氏（静岡新聞社事業部長，6月25日，7月29日及9月1日），小野真一氏（加藤学園考古学研究所，6月25日），鈴木正因氏（臨濟寺住職，6月25日），築地茂氏（静岡新聞社，7月1日），西文俊氏（静岡第一テレビ，7月1日），静岡市国際交流協会（山田真才氏他17名，7月3日），植松俊男植松（日通美梱，7月8日），斎藤孝正氏（文化庁文化財調査官，7月11日），安村敏信氏（板橋区立美術館，7月12日，9月16日及10月28日），渡辺妙子氏（佐野美術館副館長，7月20日），野中寛氏・紺野雅治氏（カトウスタジオ，7月24日），中野宥氏（登呂博物館，7月25日及11月12日），山下晃氏（前静岡県史編さん室長，7月25日），小和田哲男氏（静岡大学教

授, 7月25日), 渡辺綾美氏(フィールドノート社, 7月27日), 高橋克伸氏・太田宏一氏(和歌山市立博物館学芸員, 8月1日及11月2日), 田内誠人氏(NKH和歌山, 8月1日), 日本服飾学会(8月3日), 蛸子克郎氏(NHKチーフプロデューサー, 8月23日), 飯田真氏(静岡県立美術館学芸員, 8月31日), 金子富士男氏(ホノルル美術館, 8月31日及9月1日), 水上哲朗氏(信玄公宝物館学芸員, 9月7日), 坂部新氏(フェルケール博物館長, 9月7日及10月20日), 西野和豊氏(フェルケール博物館副館長, 9月7日, 10月20日及1月30日), 静岡市文化財資料館3名(9月13日), 渡部淳氏(土佐山内家宝物資料館, 9月14日), 福原章浩氏(静岡県史編さん室, 9月22日及10月20日), 嘉藤美代子氏(仙台市博物館学芸員, 9月30日及11月27日), 池田宏氏(東京国立博物館, 9月30日), 小添晃夫氏(コクヨ, 10月5日), 川澄祐勝氏(高幡不動尊山主, 10月6日), 石川嘉延氏(静岡県知事, 10月9日), 斎藤望氏(彦根城博物館学芸員, 10月19日), 山岸岳氏(彦根城博物館学芸員, 10月19日, 20日及12月5日), 内山淳一氏(仙台市博物館学芸員, 10月26日), 宮川氏(ミキモト, 10月27日), 鍋島保孝氏(前田育徳会, 10月28日), 宮崎裕子氏(NHK事業部, 11月2日), 石井裕一郎氏(NHK, 11月4日及24日), モロッコ大使(11月8日), 村澤浩氏(陶苑, 11月12日), 西岡あおい氏(静岡リビング新聞社, 11月12日), 鶴田隆志氏(毎日新聞大阪本社, 11月21日), 破石澄元氏(中尊寺執事, 12月4日), 朝日芳英氏(那智大社権宮司, 12月12日), 高橋彬氏(和歌山県文化財課, 12月12日), 荒井文治氏(元横浜国立大学教授, 12月17日), 河北直行氏(中日新聞社, 12月20日), 前林孝一良氏(静岡県史編さん室, 12月22日), 安本収氏(駿府博物館学芸部長, 1月1日), 田中文雄氏(静岡県立中央図書館, 1月2日), 松本稔章氏(静岡県史編さん室, 1月10日), 田良島哲氏(文化庁文化財調査官, 1月23日), 建部恭宣氏(富嶽学園教授, 1月23日), 真鍋哲男氏(2月5日), 阿部容子氏・吉井浩美氏(群馬県立歴史博物館, 2月14日), 黒澤脩氏・石山幸喜氏(静岡市教育委員会, 2月17日), 斎藤洋一氏(戸定歴史館, 2月25日), 近藤大和氏(ヤマト美樹, 3月7日), 天野忍氏(静岡県教育委員会, 3月31日)。



### 博物館の名品 23

和歌色紙（わかしきし）「春くれは云々」 一幅

『古今集』巻七・賀歌に収められている紀貫之の詠「春くれは宿に先さく梅のはな君か千とせのかさしとそ見る」を六代將軍家宣が筆にしたものである。流麗にして品格の高い書であり、好学家宣の教養の高さを示すものといえよう。因みに家宣には自詠の遺作はなく、専ら古歌に筆を染め『新古今集』や『十体和歌』、『奈良八景和歌巻』等も伝存し、中に「綱豊書之」、「家宣書」等の自署を書き添えたものもある。

彩箋墨書（金砂子散・金泥絵入） 縦16.5cm 横14.7cm 明治14年5月 徳川家達奉納



## 博物館の名品 24

一行書（いちぎょうしょ）「中嶺通佳氣」 対幅  
「中峯繞瑞烟」

徳川吉宗は実学を重んじて儒学や歌道への関心はあまりなかったらしい。当代の高学近衛基熙は吉宗の詠歌に接し「於和歌者尤無骨可笑々々」といい、辛辣な評価を下している。

現存する吉宗の筆蹟は自詠を含む和歌に古語などを加えても十点足らずであろう。『寛政重修諸家譜』をみても吉宗の書は、多数の絵に比べて僅か三件を記録するのみである。

本書は『杜審言詩』の「中嶺通佳氣，中峯繞瑞烟」の語句を二紙に分け筆にしたもので、これを収納する桐箱の表に「八代将軍吉宗公親筆」，裏に「海舟勝安芳謹誌，當時近臣某所賜無疑者也」と書かれていて，勝海舟が筆者を吉宗と鑑している。

紙本墨書 縦124.0cm 横24.0cm 明治14年5月 徳川家達奉納



### 博物館の名品 25

六十二間筋兜（ろくじゅうにけんすじかぶと） 一頭

黒塗総覆輪筋鉢六十二間阿古陀形の兜で、篠垂を真向に三条、後中に二条打つ。鍍金の八幡座は五重で、笠印付環には総角紅角八打の付け房が付く。前後とも七間目に四天の鉾を打ち、その下に響孔があって平打紐の緒を出す。眉庇は藻獅子韋包みで鍍金の覆輪を廻らし、奈良菊の三光鉾を打つ。鍬形台は鍍金唐草透彫座に葵据文を左右に各三箇、中央に一箇付け、祓立台には二箇の葵据文を配す。立物・鍬形は欠失。鞆は大饅頭形の五段下りで三段を吹返し、黒糸で威す。裾金物は五箇所に鍍金唐草透彫葵据文二箇付を打つ。吹返は藻獅子韋包みに金銅葵紋を据文とする。鉢裏の受張は紺染縮緬百重刺で、眉庇裏は濃薫韋。忍緒は三所付で、緒は欠失している。九代將軍徳川家重の所用と伝えられる黒糸威鎧に付属する兜である。重量4050g



## 博物館の名品 26

葵立涌蒔絵陣笠（あおいたてわくまきえじんがさ） 一頭

陣笠は行軍や軍陣に兜の代用とした笠で、円錐形の仕立てを普通とするが、この陣笠は後部の裾を延ばした異形をなす。表は黒漆塗地に銀立涌金銀交ぜ合わせの三葉葵丸紋を蒔絵し、裏は金泥で眉庇裏を吹き反らし、葵紋を筋蒔絵とする。頂辺座の玉縁は金銅、小刻二重・菊座三重・鷄目を銀とし、頂辺には頭建用の螺旋入の孔がある。頭建は白熊で銀螺旋筒付。受張は白縮緬。被り緒は左右に顎を仕付けた綱代組平絹。釦は金銅。十五代将軍徳川慶喜愛用の品で、明治三十年十一月十三日、静岡を去るにあたり、慶喜自身が当宮に納めた。

縦49.0cm 横34.0cm 高16.0cm 重量1200g

久能山東照宮博物館報  
——第 14 号——  
平成 8 年 8 月 1 日 発行  
編集発行 久能山東照宮博物館  
〒422 静岡市根古屋390  
TEL.054(237)2437